

# UpToDate と DynaMed Plus における 参考文献取り下げ時の対応の比較

大瀬戸貴己，鈴木孝明  
奈良県立医科大学附属図書館

## 【背景・目的】

臨床支援ツールは医学専門誌やデータベースなどを継続的・統合的に参照し，日々更新されている。その根拠となった文献の中には，取り下げられるものもある。常に最新のエビデンスを提供する臨床支援ツールにおいて，参考文献の取り下げによりトピックのエビデンス・レベルや推奨度に影響を及ぼす可能性は高い。そこで取り下げ文献の扱いはどのようになっているのか。臨床支援ツールの代表格，UpToDate（以下，UTD）と DynaMed Plus（以下，DMP）について，文献の取り下げへの対応を調査し，両者の傾向や特徴を考察する。

## 【方法】

- ① PubMed で取り下げ論文を検索する。検索式は，臨床論文に絞るため Publication Type[pt]を用い，「Retracted Publication[sb] AND (Randomized Controlled Trial[pt] OR Meta-Analysis[pt] OR Practice Guideline[pt] OR systematic[sb])」とする。
- ② 検索結果から UTD または DMP の参考文献として採用されている文献を取り出し，そこに UTD・DMP 内から見つけた取り下げ文献を追加する。
- ③ ②でリストアップした文献の取り下げ理由を確認し，その重要度で区分する。
- ④ リストアップした文献について，参照トピック名，取り下げについてコメントの有無，どのようにコメントされているか，また取り下げ文献が一方でのみ参照されているものについては，もう一方で同様のトピックがあるか，取り下げ文献以外に参照されている文献の傾向などを調査する。
- ⑤ ③④に基づき，取り下げ理由の重要度と各ツールでの参照のされ方との関連性について考察する。

## 【結果】

リストアップした 35 件を取り下げ理由の重要度で分けると，重要度 1（不正や偽造など意図的なもの）17 件，重要度 2（データ不備や研究方法のエラーなど意図的でないもの）13 件，重要度 3（内容が古く更新されていないなど理由として軽微なもの）5 件だった。またツールごとの参照数については，UTD・DMP 両方での参照 8 件，どちらか一方での参照 27 件だった。詳しい内容については，当日の発表で報告する。